



目次

2022.3

- 学生をしっかり育てる！
：そのための『教育の内部質保証』
- スタッフからひとこと



信州大学 | 高等教育研究センター
SHINSHU UNIVERSITY

学生をしっかり育てる！：そのための『教育の内部質保証』

高等教育研究センター長 宮崎 樹夫

1. 『学生をしっかり育てた！』 ⇒ その証＝”学修成果の可視化”

大学で学生と向き合っていると、教員も事務職員も共に願うことがあります。それは『この学生をしっかり育てたい！』という想いです。こうした想いは何より気高く尊いものであり、時間と場所を問わず教育を前進させる普遍の駆動力です。

一方、今日では社会における大学の存在意義、特にステークホルダーに対する大学の貢献が重視されています。そのため、「しっかり育てた！」証として、「学生が、いかなる能力をどのくらい修得できたのか」を明らかにする、いわゆる“学修成果の可視化”が社会から強く求められているのです。

この学修成果は、大学や学部等ではなく、各学科・コースの卒業認定・学位授与の方針(DP)に即してステークホルダーに対して開示されます。というのは、このDPこそが社会に対して学生に育てると約束した能力だからです。ですから、ご自分が担当している授業がどのDPにあたる能力を伸ばすのかを理解していることが全ての始まりとなります。

<チェックしましょう!>

大学、ご所属の学部、ご自分が担当する学科・コースのディプロマ・ポリシー(DP)をご存知ですか。

参考：[信州大学の各学部等の学位授与の方針\(DP\)](#) (←クリックいただくとWebサイトへ遷移します。)

2. 大学・学部等・教員が教育の質を保証する「仕組み」と「取組み」

では、何によって、“学修成果の可視化”が可能になるのでしょうか。

その答えは、大学教育の質を信州大学として保証する「仕組み」と「取組み」です。(この2つを合わせて、「教育の内部質保証」と呼ばれています。)
「仕組み」は大学・部局(学部等)が主に担当し、「取組み」は教員が関連する授業でチームを組んで担当します。

3. 「教育の内部質保証」の“仕組み”を整える(大学・部局が担当)

教育の質を内部で保証する「仕組み」は、教育の「形」にあたります。具体的には次のとおりです。(いずれもステークホルダーへの開示が前提となっています。)

■ 入学受け入れの方針(AP), 教育課程編成・実施の方針(CP), 卒業認定・学位授与の方針(DP: 大学, 学部, 学科・コース別)

■ CPに基づく教育課程の実施による学修成果を検証する方針(アセスメント・ポリシー)

■ DPで約束した能力等に関する卒業時修得状況(ディプロマ・サプリメント)

特に、**ディプロマ・サプリメント**は、学科、コース別の卒業認定・学位授与の方針(DP)で約束した能力を個々の学生がどのくらい身につけているのかを大学・部局・教員が社会に対して説明するものです。この作成には、「各々の授業がどのDPにどの程度寄与するのかを定量化(寄与度)」する必要があります。そのため、**部局には、各授業/関連する授業群による各DPへの寄与度が示されたカリキュラムマップの整備**が求められます。

<チェックしましょう!>

学科・コースのカリキュラム・マップはDPへの寄与度を示していますか。

4. 「教育の内部質保証」の“取組み”を恒常化する(教員がチームで担当)

教育の質を内部で保証する「取組み」は、教育の「中身」にあたります。どんなに「仕組み」が立派にみえても「取組み」が充実していなければ、その姿はハリボテにすぎません。つまり、教育の質を真に保証するのは、正に授業・評価を改善する「取組み」なのです。

【PLAN】各学科・コースの卒業認定・学位授与の方針(DP)に即してシラバスを作成する。

<チェックしましょう!>

- ☑ 担当する授業とDPの結びつきをカリキュラムマップで確認しましたか。
- ☑ 授業が結びついたDPを達成目標として次の条件を満たすように設定していますか。
条件α[固有性]: 達成目標は、この授業でないと身につかないものとなっている。
条件β[系統性]: 達成目標は、カリキュラムマップで関連する授業の基礎もしくは発展となっている。
条件γ[到達可能性]: 達成目標は、受講生にとって到達可能なものとなっている。
- ☑ 授業の内容は、学生が達成目標にあるDPの能力を修得するのに適切ですか。
- ☑ 評価は、達成目標にある各DPの能力に即して実施されますか。

【DO】DPに即した達成目標に向けて授業と評価を行う。

<チェックしましょう!>

- ☑ 担当する授業とDPの結びつきに即して、学生の様子を見守っていますか。
- ☑ 達成目標に即して学生の到達度をチェックできるように、小テスト等を実施していますか。
例:小テスト等の各設問を、授業が結びついている各DPに即して作成している。
例:レポートの採点では、授業が結びついているDPごとに得点化している。

【Check】エビデンスに基づいて、シラバスと授業・評価を点検する。

<チェックしましょう!>

- ☑ 教員が学科・コースごとに関連する授業でチームを組んで点検をしていますか。
- ☑ 教員側のエビデンス(成績分布等)に加え、学生側のエビデンス(授業アンケート等)をエビデンスとしていますか。

【Action】点検の結果に基づいて、シラバスと授業・評価を改善する。

<チェックしましょう!>

- ☑ 改善した達成目標は、3条件α, β, γを満たしていますか。
- ☑ 改善した授業の内容は、学生が達成目標にあるDPの能力を修得するのに適切ですか。
- ☑ 改善した評価は、達成目標にあるDPの能力に即して実施されますか。

こうした「取組み」を恒常的に推進していくためには、**部局内で教員の取組を支える体制づくり**が必要です。具体的には、部局執行部員を長として**教育改革の「戦略」**を企画・推進する組織が部局に設けられ、全国・全学の動向に基づいて部局の教育課題を特定し改善策を俊敏に講じていくことが重要です。

5. 学生と教職員が「その気になる」環境を整える

教育の質を内部で保証する「仕組み」と「取組み」が有機的に連動していくには、学生と教職員の教育環境を整備していくことが欠かせません。特に整備が急がれるのは次のとおりです。

■ 学生による主体的・対話的な学びを活性化する体制を構築:組織的な学習支援の充実

中央図書館には、学習やレポート作成の相談に応じてくれるアドバイザーがいます(ピアサポ@Lib)。この仕組みは、学生による主体的・対話的な学びを支えるためのものですので、附属図書館全てで持続可能な整備が不可欠です。

■ 教育業績に対する評価の妥当性と信頼性をエビデンスに基づいて保証

「教員業績自己申告書」に必要な情報(教育, 研究, 社会貢献, 大学運営)が自動で収集・表示されることで業績評価の信頼性を高めることができます。特に、教育業績は自己申告に強く依存してしまっています。そのため、教育に関する業績評価の妥当性と信頼性をエビデンスに基づいて保証できるようにすることが喫緊の課題となっています。

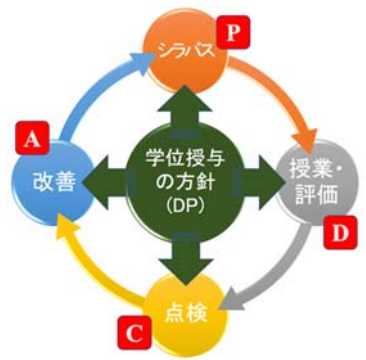
■ 教育の全情報を一元的に管理・運用できる「ワン・ストップ・システム」を構築

授業の改善には、成績分布や授業アンケートの状況などの活用が必須です。現在、「キャンパス情報システム」、「eALPS」、「出席確認システム」等、教育に関する情報(履修, 授業, 成績, 授業アンケート等)が複数のサイトに点在しています。こうした情報を一元的に管理・運用できると、業務が軽減されるとともに学生と教職員の協働性が高まっていくことが期待できます。

ゆくゆくは、学生が教育の“受け手”に留まらず、“創り手”としても参画していくことになります。そのためには、教職員が主導する「仕組み」や「取組み」を、学生と教職員が協働するものに進化させていくことが鍵となるでしょう。

令和4年度より独立行政法人大学改革支援・学位授与機構に勤務することになりました。前職の広島大学高等教育開発センターは、高等教育に関する国際比較研究を実施する機関でしたので、マクロ的な視点で大学の諸問題を考察する機会が多かったです。一方で、信州大学に勤務するこの9年間、マクロ研究で扱えない大学の独自の問題と特徴が多々あることが分かりました。この現場の肌感覚は私にとって最大の財産となっております。4月からは再び高等教育のマクロ研究に戻るかと思存しますが、机上の空論にならないように、ここ信州大学での経験を最大限に生かそうと考えております。

信州大学に在勤中は公私ともども皆様から格別のご厚情を賜り、心からお礼申し上げます。今後とも変わらぬご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。
(高等教育研究センター准教授 李 敏)



Plan	各学科・コースの卒業認定・学位授与の方針(DP)に即してシラバスを作成する。
Do	DPに即した達成目標に向けて授業と評価を行う。
Check	エビデンスに基づいて、シラバスと授業・評価を点検する。
Action	点検の結果に基づいて、シラバスと授業・評価を改善する。

